

お部屋に
クリスマスツリーを
飾ります



サンタさんへの
お手紙

リクエスト通り、
欲しかった
プレゼント！



サンタさん…
また来年も来てね

昼も夜も
小人たちの観察



編集後記

昨年末、子どものケアの現場で起こった虐待のニュースが報道されました。当事者である子どもはもちろん、そこにいる子どもたちの声、保護者の方、地域の方、同僚の職員、また当事者の保育士の声など、それぞれの立場を感じていくと様々な感情が湧き起こりました。ケアに携わる者として、セルフチェック・ケアはもちろん、スタッフ同士が仲間の様子が気がつき、声をかけ、話し合い、聴き合える関係性を築いていたいと思います。またそういう土壌は私たち自身が作っていけることを忘れないでいたいと思います。(広報委員 仲井)

麻布乳児院だより

第5号

令和5年1月1日発行

発行…麻布乳児院

東京都港区南麻布5丁目1番20号

編集・印刷…勝田印刷株式会社

デザイン…牛木良

Azabu infant home

麻布乳児院 だより

広報1月1日

Vol.05

〒106-0047 東京都港区南麻布5丁目1番20号

TEL: 03-3446-5361

Mail: keifuku-nyujin@nifty.com

わたしたちの「理念」

- 個性の尊重
- 心身の健全な発達促進
- 家族や地域社会との連携



新たな年の始まり。
はじめのいっぽ



主な記事

- 1 子どもの声
- 2 養育者へのインタビュー
- 3 ほっと・にっこりエピソード
- 4 ボランティアの方への感謝
- 5 子どもたちの作品集

広報誌「麻布乳児院だより」では、社会的養護の元にいる子どもの声をお届けすることを主眼としています。社会の一員として、ともに子どもの声に耳を傾け、一緒に考えていきたいと思います。

child's voice 子どもの声

日々、子どもたちがどんな風に感じているか。
子どもからはどんな風に見えるか、
私たち養育者は子どもたちに寄り添って、
「子どもの声」を感じ、探求しています。



「興味津々！」

0歳の乳児の声

(うーん、キリンさんまで手が届くかなあ)
(ぼくも届くかやってみよう！
よいしょ！よいしょ！よいしょ！)

子どもの様子

だんだんと体を動かすことが楽しくなり、寝返りや腹這いでの遊びが上手になってきたヒヨコ室の子どもたち。視野が広がったことで世界も広がり、いろいろなものに興味を持ち始めています。お部屋にあるおもちゃやお友達に手を伸ばしたり、上手に身体を動かして触れに行こうとします。子どもたちの興味津々な表情や一生懸命な姿がとても可愛らしいです。

(ヒヨコ室 福田)



「お話しだいすき！」

1歳と2歳の子どもの声

Aちゃん：(楽しそうなおもちゃで遊んでる…。
私も遊びたいなあ～)
「かーしーて」
Bちゃん：「どーぞ！」
Aちゃん：「ありがとう！」
(お友達と遊ぶの楽しいなあ！)

子どもの様子

少しずつ色々な言葉を覚え、養育者やお友達とお話することが楽しいバンビ室の子どもたち。大好きなおままごとでは、「かんばんーい！」「おいしい！」と会話が弾みます。お散歩に出掛けると、「葉っぱ」「わんわん」と発見したものを、目をキラキラ輝かせながら養育者にお話をする姿はとても可愛らしいのです。日々の生活の中で、たくさんのことを吸収し、どんどんお話が上手になる子どもたちから成長を感じます。

(バンビ室 米山)

「夢中で遊ぶ、発見して楽しむ」

2歳の子どもの声

(車は大好きだし、おもしろいけど、これも気になる)
(このブロックをつけたらどうかな…おお…！
次はこうしようかな…)

子どもの様子

2歳のCくんは1日に何度でも「ぶーぶー！な！(ちょうだいな)」と言っては、いくつも車のおもちゃを床に出して1歳7ヵ月のDくんと遊びます。「他のおもちゃのおもしろさも知って欲しいなあ」と思い、ブロックでトンネルを作ってみました。ブロックに見向きもしなかった2人ですが、車と一緒にトンネルをくぐっては大はしゃぎ！そのうちCくんはトンネルに自分でブロックを重ね始め、トンネルを大きくしていききました。大好きなものに夢中でありつつ、色々なものの面白さをたくさん発見して楽しんでいて欲しいと思っています。

(コネコ室 田村)



「雨の日のお散歩、楽しいな」

2歳と3歳の子どもの声

Eくん：(かさってどうやってやるのかな)(楽しそう)
Fちゃん：(まだ小さいから教えてあげようかな)
「傘をさしたら濡れないよ」
(教えたとおりに一緒にやってくれた)
Eくん：(一緒にお散歩楽しいな)



子どもの様子

1歳以上離れている、同じお部屋の子供たち。今日は雨の日にお外に行きたい2歳のEくんに、傘のさし方を年上のFちゃんが教えてくれます。「ここは危ないから大人にやってもらって」「両方のおてで持ったら、おとととってならないよ」と優しく伝えてくれました。穏やかにやり取りし、遊ぶ姿に心があたたかくなりました。そんな子どもたちの姿を見ていると、養育者も優しく声を掛けて一緒に楽しんで過ごしていきたいな、と思わせてくれます。

(キリン室 藤原)



養育者への インタビュー



関根和美さん
勤務年数 9 年



横田さん
勤務年数 11 年

1

この職業を選んだきっかけは何ですか？ また乳児院を希望したきっかけは何ですか？



小さい頃から保育士になりたいと思っていました。短大で学ぶ中で児童福祉の分野に興味を持ち、乳児院で色々な背景を持つ家庭を支えたいと思いました。



漫画『キャンディキャンディ』に出てくる孤児院の先生に憧れを持ちました。その後TVで児童養護施設のドキュメントを見て、“私の仕事はこれだ!”と思いました。モンテッソーリの幼稚園で数年働いた後、1度子どもと関わる仕事から離れたましたが、再度ベビーシッター等の仕事をしました。それでも乳児院や養護施設で働きたいという思いがあり、麻布乳児院と出会いました。

2

実際に乳児院で 働いてみてどんな風に 感じましたか？



色々なケースがあり、それぞれ支援の仕方や関わり方の違いを考えることがやりがいでもあり、大変さだとも思います。子どもに関しては、お家の代わりということもあって担当養育者との結びつきは強いと感じています。



最初はケース状況を目の当たりにして戸惑ったり、自分の力量のなさもありいっぱいいっぱい、自分で対応できるのか…と悩むこともありました。経験年数が上がるにつれてどんな状況だったとしても、ある程度ゆったりと構えていられるようになったと感じています。

3

副主任となって 意識していることは ありますか？



今まで以上にパート全体の把握に努め、職員間でのコミュニケーションを取るよう心掛けています。養育していくことは大変だから1人で抱え込まないでほしいと思い、こちらから話しかけるようにしています。その人の気持ちを受け止め尊重したうえでうしていくのが良いか一緒に考えていくことを意識するようになりました。



フリー養育者*として働く中で 意識していることはありますか？

フリーになって自分の持っている仕事にも多少余裕ができて、周りを見られるようになってきました。主に乳児クラスだと経験年数が若い職員もいたり、1人勤務の部屋だと大人もいっぱいいっぱいになることもあるので、まめに声を掛けたり、洗い物等些細なことでも手伝うようにしています。また、若い職員の遊び方や接し方を見て“良いな”と思えることもあるので、自分も成長できるようにアンテナを張っていきたくと思っています。

※フリー養育者：色々な居室に入ってサポートする職員

4

乳児院を巣立っていく子どもたちへの想い



家庭復帰も措置変更も全力を注いで愛情をかけてきた子どもとお別れなので、寂しさや辛さはあります。送り出す先の人と丁寧に引継ぎを行い、信じて送り出しています。送り出して終わりではなく、お手紙のやり取り等で様子を伺い、安心して自分の気持ちも落ち着いていくように感じています。他の職員が同じ経験をした時には自分の経験を活かして気持ちに寄り添っていきたいです。



担当した子どもは家庭復帰が多く、お家に戻れることは家族にとって再出発なのでほっとした気持ちと喜びがありました。措置変更の時には責任をもって養育してきた子どもとお別れで寂しさや辛さもあって当たり前で、その気持ちを自分の中で大事にしたいです。アフターケアで成長している姿を見ると安心しエールを送りたい気持ちになります。

6

この仕事をやっていて 一番印象に残って いることは何ですか？



寝返りした時や歩いた時等の成長はとても記憶に残っています。子どもが絵を描いてプレゼントしてくれた時にも“こんなに描けるようになったんだ!”と驚きと嬉しさがありました。毎日勤務できるわけではないから、勤務に入った時に成長の早さに驚きます。どれが1番と言えないけど、子どもの成長が嬉しい!!



家庭復帰した担当児が年賀状を送ってきてくれて、この仕事をしていたと報われたと感じました。日常の中では2歳以上の子ども3～4人を1人で養育し、就寝後子どもがスヤスヤ眠っているのを見て“1日元気に過ごせてよかった!”と思えて、何もないことが幸せだなと感じました。

5

子どもと関わっていて 1番好きな自分は どんな時ですか？



ゆったりと抱っこやおんぶでスキンシップをとり、お互いが心地良い感じになった時!



今は1歳前後の子どもと過ごすことが多く、子どもが養育者の言葉を少しずつ理解出来るようになってきてコミュニケーションがピタッととれた瞬間、お互いが笑顔でいられた時!

7

今後乳児院で働くうえで 大切にしたいことは 何ですか？



麻布乳児院としてライフストーリーワークや生い立ち整理を取り組み始めたところです。それをもっと定着させて、子どもが自分らしく生きていけるような取り組みにできるよう頑張っていきたいです。また副主任として、大人も子どもも毎日楽しく笑顔で過ごせるように支えていきたいです。



現在コロナ禍で色々な感染対策を実施していますが、少しずつ緩和され今までの様な生活が送れると良いなと思っています。様々な状況で入所してくるので、自分が子どもの気持ちの拠り所になって笑顔で1日を終えられるような関わりをしていきたいです。退所後大きくなった時や何かあった時に“子どもの時に幸せな時間があったな”と思えるように、子どもの根っことなる部分を作ってあげられる環境でありたいです。

インタビューを終えて

感染症対策の為、リモートに変更になってしまったりと慌ただしい中でしたが、ご協力下さり感謝しております。勤務年数も近く、同じフロアで働いていた2人でしたが、知らなかったことが多く、今回インタビューができて良かったです。養育現場だけではなく、色々な立場の方の想いを知る機会をこれからも作っていききたいなと思いました。

インタビューー津川

ほっと にっこり エピソード episode

麻布乳児院では、「ほっとにっこり」情報の記入をしています。

日々の「ヒヤリハット」もしっかりと記入、振り返りをしているのですが、それ以上に「ほっとにっこり」な出来事も沢山あります!!

今回は、2022 年に出たほっとにっこり情報の中から
とおきのエピソードをここにまとめました。

※ヒヤリハット：ケガや事故にはならなかったものの、ヒヤッとしたり、ハッとした出来事を速やかに共有して対策を検討していく報告書
※ほっとにっこり：思わずほっと和んだり、にっこり微笑んでしまうエピソード、素敵だなと思う養育者の言葉掛けや対応など、あたたかい場面を皆で共有するもの



子どものエピソード

手を広げて抱っこを求めた子にそっと近づいた他のお友達が、手の中に入りハグされ、抱きしめ合っていました。抱っこを求めた子も満足そうに笑っていてほっこりしました。

おやつにハイハイ（赤ちゃんせんべい）をあげたところ、大変気に入ったようでよく食べていました。手の中にあるハイハイも懸命に食べようとしますが、手を開けられず食べられず…。最終的には自分の拳を口に入れようとしていました。

お庭で遊んでいる時、雨がパラッと降ってくるので□□くんが空に向かって「雨やんで下さ〜い」と言っていました。雨は止まなかったので少し経つと「もう! 雨のイジワル!」とプンプン怒っていました。その様子が微笑ましく可愛いなと思いました。

飲み物の自動販売機を“ピッ”と押すとジュースが出てくるのを覚えた□□くん。お散歩中、お店の看板を指で押して、自分で「ぴ!」と言って下の方を一生懸命めくってジュースを探していました。それは自販機じゃないけどかわいかったので「ジュースどこかなあ」と一緒に探してしまいました。

2才10カ月の□□ちゃんと1才6カ月の△△ちゃんは仲良しの2人です。ある日△△ちゃんが注射があることを□□ちゃんは知り、△△ちゃんに「ちっくん泣かなくて大丈夫だからね」と声を掛け気にかけていました。また、終わって帰ってくると「ちっくんがんばったねー」とほめてくれました。そんな△△ちゃんは注射した部分のシールを見せたくて「ちっくん、アンパンマン!」と洋服を脱ごうとしていました。

10ヶ月の女の子が床から独り立ちができるようになりました。養育者2人が拍手をして「すごい!」とほめていたところ、歩行が完成している1歳半の男の子がその子と同じような動きで何度も立ち上がってとても得意そうな顔になり、ほっこりしました。

「朝ごはんは何かな〜?」と聞くと、「パンパン」と言っていた子が、だんだんと言葉が増えていき、「あまいパンパン!」「おっきいパンパン!」「おいしそ〜!」「やった〜!」と毎日毎日、大盛り上がりしているのを見るとニコニコしてしまいます。



職員(養育者)のエピソード

朝、お部屋に行って一番に「今日は〇〇さんがいっぱい抱っこするね。□□くんも“抱っこして”って言って大丈夫だよ」と抱っこしながら伝えている養育者がいました。「抱っこしてって言って良いよ」と改めて言葉にしてもらえる子どもも嬉しいだろうと感じ、私も真似していこうと思いました。

最近、お部屋の子どもたちは皆、何か出来た時に「〇〇さんに言いに行こう」と他の養育者のお部屋へ行きたがる人が多いのですが、その養育者はいつ行っても大きなアクションでたくさん褒めてくださり、子どもたちも大喜びで自信に繋がっているの、とても良いなと思います。

ボランティアの皆さまへ 感謝! Thank You!!!

クリスマスの飾りやケーキなど、
子どもたちの日々の日常を
さらに鮮やかにして下さる贈り物を
頂きました。



院長 押切 宣裕

新年 明けましておめでとうございます。

ボランティアの皆様方、
ご寄付をいただいた皆様方には、
麻布乳児院のこども達のため、
種々お心づかいをいただき、
心から感謝申し上げます。

コロナ対応が続いていますが、
こども達が健康で楽しく暮らすことが
できるよう、感染予防に留意しながら
養育に努めてまいります。

引き続きご支援のほど、
よろしくお願いいたします。

2023.1.1



ボランティアの皆さま、
いつもありがとうございます!

